

報道関係者各位
プレスリリース

2025年10月8日
神奈川県住宅供給公社

「小田原地区木材業協同組合・神奈川県住宅供給公社による二宮団地再編事業」 第42回住まいのリフォームコンクールにおいて優秀賞を受賞！

神奈川県住宅供給公社（以下、公社）は、第42回住まいのリフォームコンクールにおいて、応募総数296件から入賞し、優秀賞を受賞いたしましたのでお知らせします。



県内小田原産の杉材のフローリングとキッチンを採用した二宮団地の“里山”リフォームプラン

■第42回住まいのリフォームコンクール

2025年10月6日（月）住宅金融支援機構「すまい・るホール」（東京都文京区）にて、表彰式が開催されました。「住まいのリフォームコンクール審査委員会」（委員長：松村秀一 神戸芸術工科大学 学長）による審査の結果、上位賞7作品、ナレッジ賞3作品を含む入賞32作品が表彰されました。表彰式の後には、5名の審査委員によるパネルディスカッション（上位賞作品講評会）も開催され、審査委

員より「日本の住宅は物理的には長寿命だが、活用されず放置されるケースが増えている。その中で、ストック住宅をどう維持し、活かすかが今後の鍵であり、「建物の健康寿命」を延ばすリフォームが、空き家対策などの社会課題や地域再生を担っている。今回、受賞した作品には、こうした課題に対する先進的・実践的な解決策が多く見られた。このリフォームコンクールはデザインコンクールではなく、社会課題をどのように捉えて、ストーリーやプロセスを組み立て、実践したかを評価するもの。何にフォーカスしているのかを明確にして、今後もこのコンクールに応募していただきたい。」などと語られました。



2025年10月6日公社職員（左）と小田原地区木材業協同組合（右）揃って、主催者の公益財団法人 住宅リフォーム・紛争処理支援センター淡野理事長より表彰状が授与されました

【住まいのリフォームコンクールについて】

全国各地で施工された住宅リフォームの事例を募り、優秀な事例について依頼主（施主）・設計者・施工者を表彰し、これを消費者や事業者にも広く紹介することにより、住宅リフォームの促進とリフォームの水準の向上を図ることを目的としているコンクールです。

主催：公益財団法人 住宅リフォーム・紛争処理支援センター 共催：独立行政法人 住宅金融支援機構

■ 優秀賞受賞作品「小田原地区木材業協同組合・公社による二宮団地再編事業」

入居率が6割を切っていた二宮団地(中郡二宮町)で隣接する小田原市などの山で育った杉材を使ったプランを導入したのは2016年。厚さ25mmの小田原杉の無垢フローリング、小田原杉のオリジナルキッチンも採用した木質化リノベは大変な評判を呼び、とくに地区外からの移住検討者への効果的な訴求ツールとして機能しています。また、入居者の増加と二宮団地のコンパクト化(856戸→580戸)により、2020年度には入居率が約85%まで回復。漸減傾向にある二宮町人口の社会増にも貢献しているとの評価を得ています。



25 mmの無垢フローリングは足ざわりが心地よい



LDKにはこだわりのオリジナルキッチン

■担当者コメント

再編事業前の二宮団地は空室が4割を超え存続の危機にありました。その一方で、海と山が揃う立地、自然と触れ合える環境、そしてゆとりのある敷地という強みもありました。こうした「里山ライフ」を活かすことが、新たな再編事業の出発点となりました。

再編事業の取り組みは、小田原地区木材業協同組合をはじめ、地域住民の皆さまのご理解ご協力のもと、成し遂げられたものです。

皆さまとともに歩んできた10年間で、今回評価されたことを大変嬉しく思います。

これを一つの節目として、さらに工夫を重ねて次へと繋げていきたいと思っております。

■二宮団地再編事業（概要）

約50年前に首都圏のベッドタウンとして開発された二宮団地（中郡二宮町）は、一戸建分譲住宅と鉄筋コンクリート4階、5階建の公社賃貸住宅などの複合住宅団地。都心までの距離や間取り・断熱性、設備等が現代のニーズと乖離し、新たな価値の創出や魅力の発信が課題でありました。2015年度には団地内の公社賃貸住宅の入居率は約56%まで減退する状況の中、公社では二宮団地の存在意義やあり方を考え、地域資源や既存ストックを有効活用した魅力向上策を検討。湘南の最西端の海や里山の景観を保持し、自然や農業を楽しむ里山ライフを満喫できることを最大の魅力として位置づけ、その魅力を最大限に引き出すべく、2016年に「入居促進」「団地と地域の魅力アップ」「賃貸住宅のコンパクト化（集約）」を柱とした二宮団地再編事業に着手しました。入居促進では里山を感じるプランを導入することとし、県内産木材を活用することで、森林保全の健全化と地域経済への寄与することも視野に入れ、木のプロフェッショナルである小田原地区木材業協同組合にプラン開発の協力を依頼しました。施工面でも、地元の熟練職人と若手大工が協働し、伝統技術の継承と現場力の強化、若手の育成をねらいとして「活きた現場」として公社住宅のリノベーション（木質化）に取り組み、2024年度までに約110戸の木質化リノベーションを行いました。

■会社概要

神奈川県住宅供給公社は、神奈川県の住宅政策の一翼を担う社会的企業として、社会情勢等の変化に応じた取組みを進め、持続可能な社会の再構築を目指すとともに、人生 100 歳時代における健康寿命の延伸に向けて、県民の皆さまの住まいと暮らしに貢献し、「皆様が笑顔で暮らし、選んでもらえる住宅」を提供し続けたいと考えています。

社 名 : 神奈川県住宅供給公社

代 表 者 : 理事長 高澤幸夫

所 在 地 : 〒231-8510 横浜市中区日本大通 33 番地

設 立 : 1950 年 (昭和 25 年) 9 月

事業内容 : 賃貸住宅管理事業、賃貸施設等管理事業、高齢者住宅事業

基本財産 : 3,000 万円 (出資者:神奈川県 1,500 万円、横浜市 750 万円、川崎市 750 万円)

U R L : <https://www.kanagawa-jk.or.jp/>

【本件に関するお問い合わせ先】

神奈川県住宅供給公社 賃貸事業部 運営企画課

T E L : 045-651-1849 (営業時間 : 平日 8 時 30 分~17 時 15 分)